

## 既成市街地における住環境整備に関する都市計画制度ビジョンの研究

浅見 泰司 （東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・助教授）

### 〔研究報告要旨〕

21 世紀に向けた新たな都市計画制度ビジョンの理論構築のために、20 世紀における都市計画の発展や 21 世紀の課題などについて専門家に対するアンケート調査を実施した。20 世紀の日本の都市計画の成果としては、制度的な整備と都市基盤の整備が大きな達成点としてあげられた。問題点としては、画一的で開発重視の都市計画がもたらした弊害を指摘する声が多く、また、公共倫理や総合性など、思想的な面も問題として捉えられている。世界の都市計画の成果としては、自治と参加や技術革新など社会の変化をとらえたものや、自動車依存の社会などが指摘されているが、都市計画の技術としては、田園都市の概念、ゾーニングという規制手法の確立、そしてニュータウンによる開発が大きな成果として捉えられている。これに対して、問題点としては、近代主義の押し売り、持続可能性、格差問題など今後日本においても主要な課題になっていくと思われるキーワードがあげられた。21 世紀の日本の都市計画のあり方としては、自治と参加、都市再生、制度改変、環境重視が挙げられている。21 世紀を見据えた日本の都市計画研究のテーマとしては、21 世紀の都市計画のあり方の基礎付けとしての研究が喫緊の課題となっている。

また、都市計画に関するツールの発展について考察を行った。ツールとしては、表示、伝達、解析、支援システム、規制手法、合意形成のツールに加えて、都市計画に役立つ概念ツールなどがある。新たな情報技術によって、3、4 次元データの利用しやすく直感的な操作技術、抽象概念の扱い、空間モデリングの最適化、オブジェクト指向の計画支援システム、計画の総合化などが発達するであろう。さらに、時代の変化に合わせて、集合的な状態を規定できる新たな計画モデルの構築が急務である。